

やってみよう！  
段ボール箱で生ごみ堆肥化！

段ボール箱に「ピートモス」と「もみ殻がらくんたん薫炭」を入れたものに生ごみを入れて、ごみ減量・堆肥化に挑戦してみませんか。冬でも室内で簡単にできます。

用意するもの

容器

- 段ボール箱 1 個  
縦30cm×横45cm×高さ30cm程度のみかん箱など
- 下敷き用ダンボール箱 1 個

道具

- シャベル
- 温度計（100℃計：生ごみ分解時の温度変化の確認用）
- はかり（投入前の生ごみ計量用）

基材

- ピートモス〔土壤改良剤〕  
20L入り袋、500円程度で園芸店で購入できます。
- もみ殻がらくんたん薫炭〔土壤改良剤〕  
15L入り袋、400円程度で園芸店で購入できます。



堆肥化の進め方（箱に入れる生ごみの量が平均500g/日の場合）

- ① ピートモス 6（15L）：もみ殻がらくんたん薫炭 4（10L）の割合で混ぜ合わせ、段ボール箱に入れ堆肥化容器とします。
- ② ①の中に生ごみを入れ、よくかき混ぜます。温度計を中心に差し込み、ふたをします。
- ③ 容器を室温が20℃以上の所に設置します。生ごみ投入開始から1～2週間くらいで、温度が40℃台に上昇します（箱に入れる生ごみの種類や量によっては、中の温度が60℃を超える場合もあります）。
- ④ 使用期間の目安は3～4カ月です。基材は黒土と混ぜて1カ月程度寝かせると、堆肥として使用することができます。次の処理セットのために、使用済みの基材を少し残しておくとい良いでしょう。

容器の置き方

容器用の段ボール箱からは、生ごみの分解に伴う多量の水分（水蒸気）が全面から発生しますので、周りの通気性を良くしておきましょう。容器の下に段ボール箱、木片などを敷き、ふたの押さえには新聞を使うとい良いでしょう。※通気性が悪くなるので、ビニール袋などで覆ってはいけません。



▲生ごみの入れ方



▲生ごみの混ぜ方



▲容器の置き方  
（下の箱は下敷用の空箱）

☆ポイント!!

最初は量を多めに（1kg程度/日）入れるとい良いでしょう。室温が10℃以下では微生物が活動しません。臭い、カビ、虫の防止策として、また、分解を速く進めるには、しっかりと、よくかき混ぜると効果的です。

札幌市清掃ホームページ（環境局環境計画部）

段ボール箱を使った生ごみ堆肥化のテクニックやQ&Aがいっぱい

<http://www.city.sapporo.jp/seiso/gomi/taihika.html>

※市役所13階リサイクル推進担当（☎211-2928）や区役所などで、生ごみの堆肥化などを分かりやすく解説した「生ごみハンドブック」を配布しています。ぜひ、ご覧ください。



ごみのあれこれ

☆ふたはどのように捨てますか？  
ペットボトルやプラスチック製のボトル類。ふたは必ず外して捨てましょう。プラスチック製のふたは「プラスチック」収集へ、金属製のふたは「燃やせないごみ」として、分けて出しましょう。

☆ごみ収集車の火災が急増しています！

スプレー缶や簡易式ガスボンベなどのスプレー缶類。中身をしっかりと使いきり、缶に穴を空け、燃やせないごみと別袋に入れ、「燃やせないごみの日」に出しましょう。

しっかりとガスを抜かないでごみとして出すと、ごみ収集車内で火災が起こることがあり、とても危険です。昨年、市では六十七件のごみ収集車の火災事故が発生しました。皆様のご協力をよろしく願います。

